

# P60訂正

卒業要件

## 家政科生活総合ビジネス専攻

(2021年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数		
						必修	選択必修	選択
家政基礎科目	家政リレー講義	2	半期	講義	1		6	
	衣生活論	2	半期	講義	1・2			
	食生活論	2	半期	講義	1・2			
	住生活論	2	半期	講義	1・2			
	保育学	2	半期	講義	1・2			
ビジネスと生活	ライフデザイン論	2	半期	講義	1	8		
	生活と経済	2	半期	講義	1			
	ビジネス実務総論	2	半期	講義	1			
	秘書学概論	2	半期	講義	2			
現代社会	日本の社会・文化	2	半期	講義	1・2		2	
	国際交流論	2	半期	講義	1・2			
	金融と生活	2	半期	講義	1・2			
	ビジネスと法律	2	半期	講義	1・2			
情報とIT	PC文書作成	2	半期	演習	1	4		
	PCデータ活用	2	半期	演習	1			
	IT活用演習Ⅰ	2	半期	演習	1・2			
	IT活用演習Ⅱ	2	半期	演習	1・2			
	ビジネスデータ分析	2	半期	演習	1・2			
	インターネットと情報倫理	2	半期	講義	1・2			
マネジメント	経営学総論	2	半期	講義	2	2	2	
	マーケティング基礎	2	半期	講義	1・2			
	マーケティング応用	2	半期	講義	1・2			
	企業会計実務基礎Ⅰ	2	半期	演習	1・2			
	企業会計実務基礎Ⅱ	2	半期	演習	1・2			
	企業会計実務応用	2	半期	演習	1・2			
	女性と起業	2	半期	講義	1・2			
ビジネススキル	秘書実務	2	半期	演習	1	6		
	ビジネス実務演習	2	半期	演習	1			
	ビジネスベーシック英会話Ⅰ	2	半期	演習	1			
	ビジネスベーシック英会話Ⅱ	2	半期	演習	1・2			
	ビジネスベーシック英会話Ⅲ	2	半期	演習	1・2			
	ビジネス英語Ⅰ	2	半期	演習	1・2			
	ビジネス英語Ⅱ	2	半期	演習	1・2			
	プレゼンテーション	2	半期	演習	1・2			
ゼミナール他	教養ゼミナールⅠ	2	半期	演習	1	8		
	教養ゼミナールⅡ	2	半期	演習	1			
	専門ゼミナールⅠ	2	半期	演習	2			
	専門ゼミナールⅡ	2	半期	演習	2			
	インターンシップ・リテラシー	2	半期	講義	1・2			
	インターンシップ(実習)	1	半期	実習	1・2			
自由科目	手工芸論及び実習	2	半期②	講義・実習	1・2			
	<del>生活のマナ</del>	<del>2</del>	<del>半期</del>	<del>演習</del>	<del>1・2</del>			
	食文化論	2	半期	講義	1・2			
	服飾文化論	2	半期	講義	1・2			
	ファッション商品論	2	半期	講義	1・2			
	生活環境論	2	半期	講義	1・2			
	ウエルネス論	2	半期	講義	1・2			
	ジェンダーから見た文化	2	半期	講義	1・2			
	環境・身体から見た文化	2	半期	講義	1・2			
	ジャーナリズムから見た文化	2	半期	講義	1・2			
	英米児童文学	2	半期	講義	1・2			
最低履修単位						28	10	12
						50		

12

注(1) この表は、家政科生活総合ビジネス専攻の専門科目に関する規定であって、全学共通科目については、全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3) 自由科目は4科目8単位を限度として専門科目の選択科目の単位に含めることができる。

注(4) 「企業会計実務基礎」はⅠ・Ⅱを組み合わせることで通年で履修すること。

## 5 栄養士課程

### 栄養士課程について

家政科食物栄養専攻では、所定の科目の単位を修得することにより、卒業を要件として栄養士免許証を取得することができます。栄養学・食品学・調理学などの理論と技術を基礎として、栄養指導論・ライフステージ栄養学・臨床栄養学・公衆栄養学・食品衛生学・給食管理論などを修得し、実習や実験を通して栄養士としての実践力を養います。対象者に寄り添い、食を通じて人々の健康に貢献する栄養士の育成を目指しています。

栄養士とは、都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいいます（栄養士法第1条第1項）。

### 校外実習について

栄養士免許取得のための実習のうち、校外における実習を実施することになっています。校外実習の目的は、栄養教育及び給食管理の実際を厚生労働省の認めた施設において実地の実習し、栄養士として備える知識と技術の全般を体得するものであって、必修です。

- (ア) 実習施設は、病院、保育所、老人福祉施設、会社・事業所などです。
- (イ) 単位は1週間（45時間）で1単位とし、履修は1単位以上とします。
- (ウ) 実習の実施期間は養成期間の後期に行うものとし、少数グループまたは個人に分かれて実習します。
- (エ) 実習にあたっては、服装、身だしなみ、態度などに充分注意し、規則を遵守してください。

実習施設	期間	単位	実習方法
病 院	1週間	1単位	} 4施設のうち、1ヶ所を選択
保 育 所	1週間	1単位	
老 人 福 祉 施 設	1週間	1単位	
会 社 ・ 事 業 所	1週間	1単位	

注 具体的な実習日時等の計画は、実習施設との話し合いによって決定し、別に指示します。

### 栄養士実力認定試験について

全国栄養士養成施設協会が、栄養士の資質向上等を図るため実施する栄養士実力認定試験に本学も参加し、学力の向上を図っています。

栄養士実力認定試験は、卒業年次（2年次）の12月上旬に実施され、協会の認定基準に従い認定証が発行されます。

### 免許状申請手数料について

栄養士免許状は住民票のある都道府県に申請しますが、各都道府県ごとに必要になる手数料は異なります。（東京都の場合 5,600円）

（注）申請手数料の金額は確定ではありません。一応の目安と考えてください。

# P70の次ページに追加

## 栄養士免許取得に必要な科目、単位数

(2020年度入学生から適用)

栄養士法施行規則に定める科目	単位数		本学授業開講科目名等			備考
	講義又は演習	実験又は実習	授業科目名	単位数		
				講義又は演習	実験又は実習	
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学	2		
			生活環境学実験		1	
			社会福祉論	2		
人体の構造と機能	8	4	栄養生理学(含運動生理学)	2		
			人体構造機能論	2		
			病理学	2		
			生化学	2		
食品と衛生	6	4	食品化学(含食品機能)	2		
			食品化学(含食品機能)実験		1	
			食品加工学	2		
			食品加工学実験		1	
			食品衛生学	2		
栄養と健康	8	10	食品衛生学実験		1	
			基礎栄養学	2		
			栄養化学	2		
			栄養化学実験		1	
			臨床栄養学	2		
			臨床栄養学実習		1	
			ライフステージ栄養学	2		
栄養の指導	6	10	ライフステージ栄養学実習		1	
			栄養指導論	2		
			食教育演習	1		
			栄養指導論実習		1	
			対象別栄養教育演習(乳幼児)	1		
給食の運営	4	10	公衆栄養学	2		
			給食管理論Ⅰ	2		
			給食管理論Ⅱ	2		
			給食管理実習Ⅰ		1	
			給食管理実習Ⅱ		1	
			給食管理演習Ⅰ	1		
			給食管理演習Ⅱ	1		
			基礎調理実習(含調理科学)		1	
			調理学実習Ⅰ		1	
			調理学実習Ⅱ		1	
栄養士実務演習(含献立演習)	1					
校外実習指導	1					
校外実習		1				

注 各科目とも出席時間数が規定に満たない者については当該科目の履修の認定はできません。

# P78訂正

## 英文科 教育研究上の目的

英語による表現能力を高め、英米を始めとした世界の文化に深い関心を持って日本の将来を考え、自分の主張を組み立て、それを英語を通して、21世紀の世界に向かって発信していける人材を育成する。

## 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

英文科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、**短期大学士**の学位を授与します。

1. 英米を初めとした世界の文化に関して幅広く高度な知識を身につけている。
2. 常に問題意識を持ち、自らテーマを見つけ、社会人としての確かな判断力を持ち問題解決を図ることができるすぐれた思考力を示している。
3. 他者の意見に耳を傾けると同時に自己の意見も主張でき、創造的に見解をまとめ、発信できる能力を備えている。
4. 英語力に関して、諸資格試験を積極的に活用することによってより高度な英語運用能力を身につけている。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

英文科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

### <教育内容>

1. 英語の基礎力(聴く、話す、読む、書く)を向上させます。
2. 英米を中心とした世界の文化に関する幅広く高度な知識を身につけさせます。
3. 現代の世界情勢や経済の動向について最新の情報を身につけさせます。

### <教育方法>

1. 上の1. に関してはネイティブ・スピーカーを含めた少人数制の習熟度別クラスで授業を行います。
2. 上の2. 3. についてはレクチャー(講義)、セミナー(少人数制)、卒業研究(論文執筆)へと段階を踏むことによって専門性を高め、かつアクティブ・ラーニングによって学修成果の定着を図ります。

### <学修成果の評価法>

通常の評価方法(定期試験、レポート、プレゼンテーション)に加え、GPA、年1回行われる TOEIC® IP テスト、卒業研究によってより包括的に評価を行います。